

資料 5



令和5年12月15日

第2回 国内肥料資源の利用拡大
に向けた全国推進協議会

国内肥料資源活用の取り組み状況

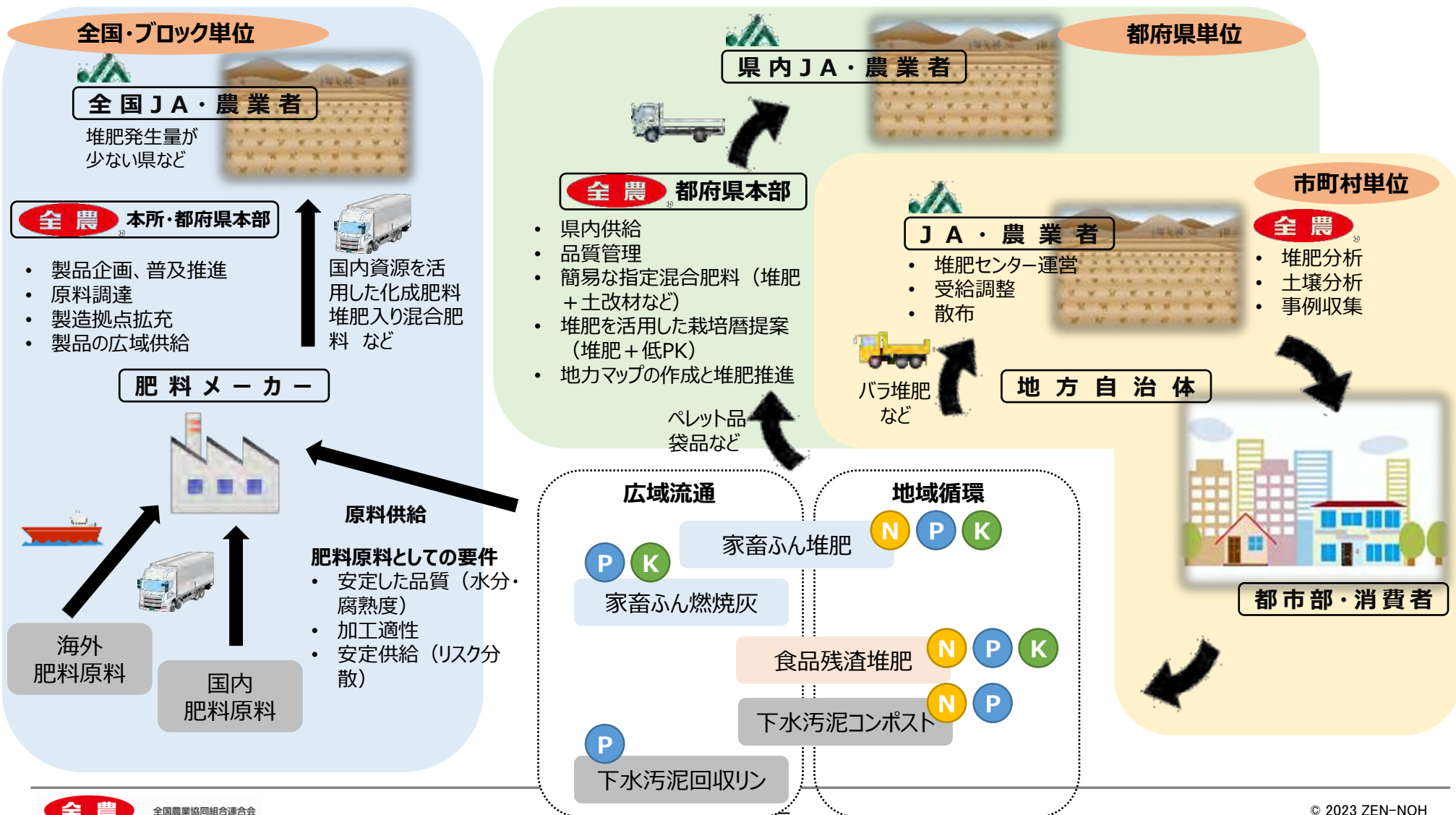
令和5年12月

全国農業協同組合連合会 耕種資材部



国内肥料資源活用の基本的な考え方

- 地域の肥料資源は、市町村など地域での循環（リサイクル）を基本としつつ、県段階では県内堆肥活用の取組みをすすめる。全国段階では、肥料メーカーとの連携のもと、複合肥料原料として資源活用を促進していく。



国内肥料資源を活用した肥料の取組み

- 本会は鶏ふん燃烧灰を利用した化成肥料および堆肥入り混合肥料の開発・普及により国内肥料資源の活用を進めている。
- 令和4年度は堆肥入り混合肥料の取扱数量がはじめて1万トンを超え、令和5年度においても肥料価格高騰の反動減により化成肥料の出荷数量が低迷する一方、堆肥入り混合肥料の数量は前年を上回る見込み。

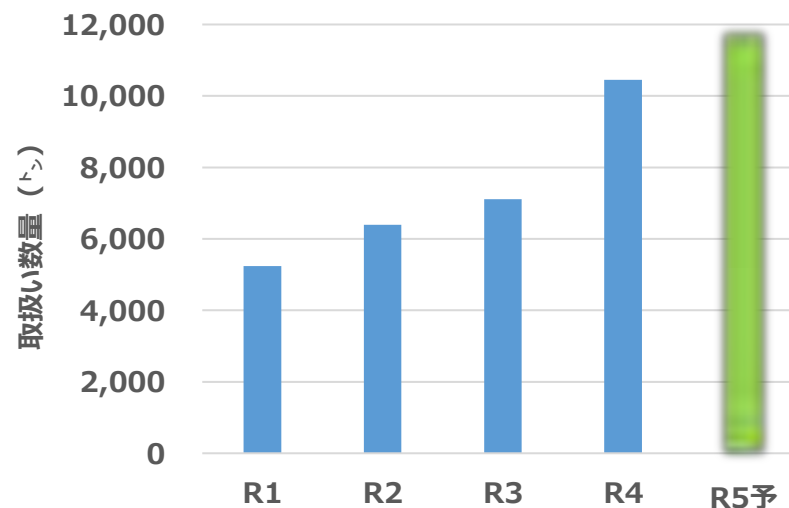
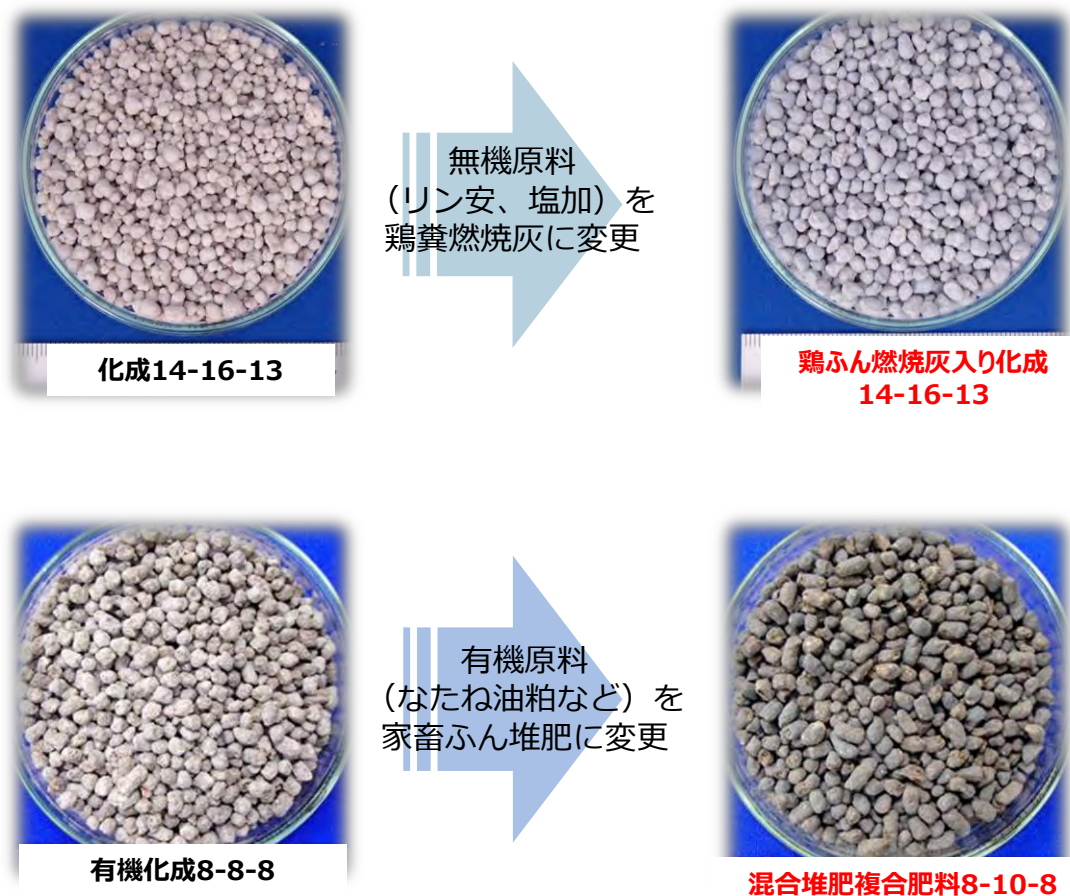


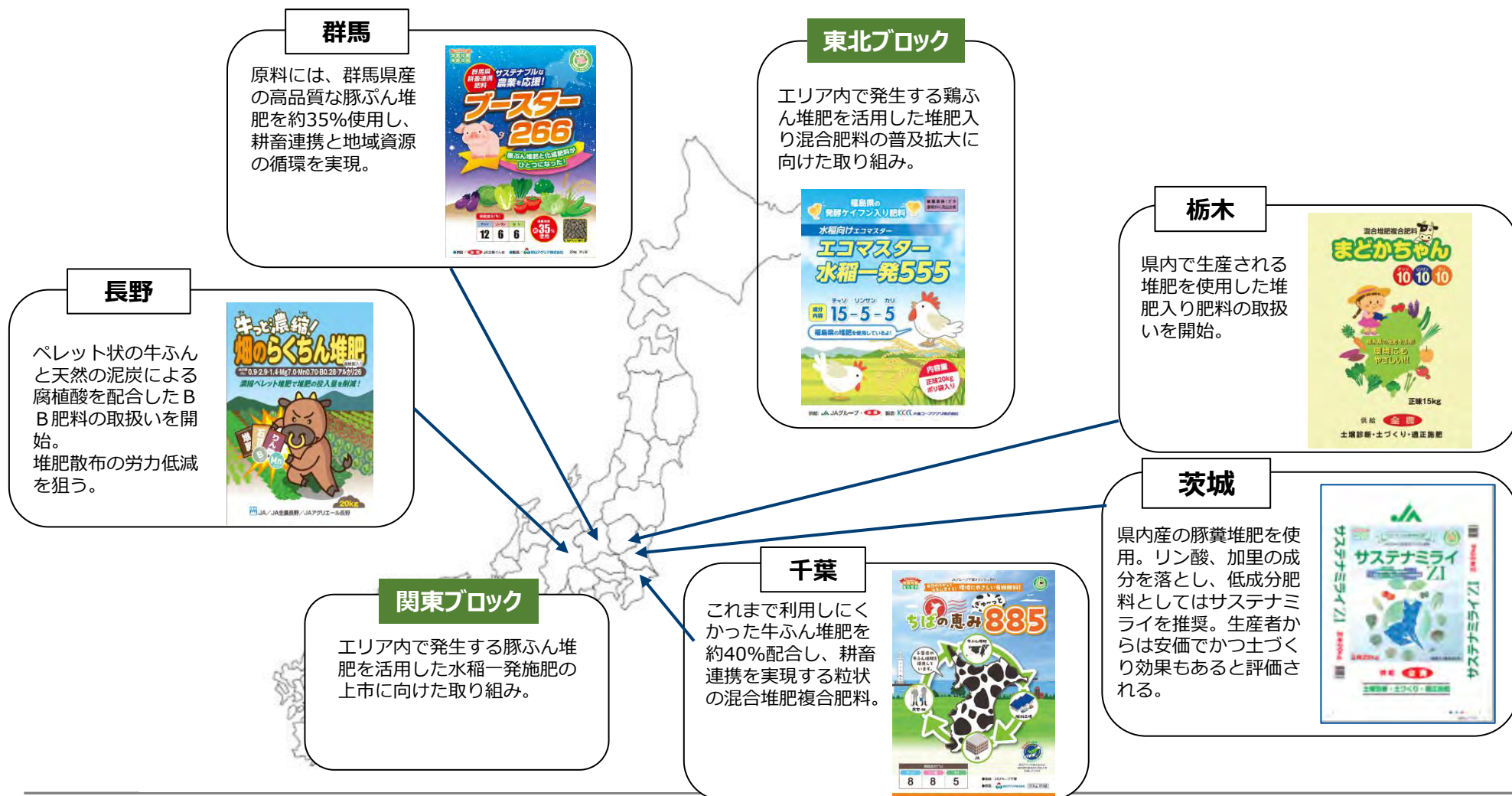
図. 堆肥入り混合肥料の取扱い実績

図. 鶏ふん燃烧灰入り化成肥料および堆肥入り混合肥料の例

国内肥料資源を活用した肥料の例（東日本）

- 各県域において生産される堆肥等を使用した肥料銘柄の上市が進んだ。（茨城・群馬・千葉）
- 堆肥が入手しにくい県域への供給、大ロット化、試験の効率化などを目的とし、ブロック共通銘柄を設定した。

図．土壌診断にもとづく適正施肥と堆肥など国内地域資源の利活用（東日本）



国内肥料資源を活用した肥料の例（JAグループ・西日本）

- 岐阜・福岡では下水回収リンを活用した銘柄を上市。
- 鹿児島、宮崎ではペレット堆肥を配合したBB肥料や配合肥料を普及。

図．土壌診断にもとづく適正施肥と堆肥など国内地域資源の利活用（西日本）

中四国ブロック

エリア内で生産される鶏ふん堆肥を25%配合し、水稻一発施肥に対応したブロック統一銘柄



熊本

J A 菊池は、管内の畜産農家から糞尿処理を受託し、3か所のたい肥センターで良質な牛ふん堆肥を製造し農家へ供給。バラ堆肥の受託散布も実施。

J A の良質な牛ふんを原料に使用した配合肥料（ペレット）を、J A が中心となり関係機関と協力して販売開始。



福岡

JAグループのたい肥センターで作られる県内産の牛ふんや豚ふん、および福岡市の水処理施設から回収する下水由来の再生リンを原料に使用した「e-green」シリーズを販売開始。



岐阜

岐阜市の上下水道から回収したリン酸と、鶏ふん焼灰を原料に使用した肥料を開発。R5年春より販売開始。



西日本ブロック

ブロック共通銘柄であるエコレットの販売に加えて、「エコレット入りBB肥料」の広域供給に向けて試験中。

九州ブロック

九州初の混合堆肥複合肥料「レコアップ」は2020年上市以来、ほぼ全県に普及。



鹿児島

県内の家畜ふん堆肥（JA関連のたい肥センター）を活用したペレット堆肥を原料に使用した配合肥料を製造開始。お茶用、園芸用のシリーズ。



宮崎

県内から発生する豚ふんや鶏ふんを使用した粒状配合肥料を販売開始。「エコループ」シリーズ。



国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムへの参加

- 第一回（東京）、第二回（九州）開催ともに J A グループ関係団体・部署が共同ブースで出展
- 第二回（九州）ではその規模を拡大し、開催地域である宮崎経済連の堆肥活用肥料「エコループ」や全農福岡県本部の下水回収リンと堆肥活用肥料「e・green」などご当地の取組を展示したほか、近隣地域である全農広島県本部や全農耕種資材部（中四国営農資材事業所）も耕畜連携の取組を紹介
- 第三回（東北）開催においても、J A 全農・J A グループブースの出展を予定している

第一回（東京）開催出展

(J A)
J A 菊池
(県域連合会)
鹿児島県経済連、
(全農本所)
畜産総合対策部、耕種資材部

J A 全農・J A グループブース



第二回（九州）開催出展

(J A)
J A 菊池
(県域連合会)
宮崎県経済連、鹿児島県経済連、
全農広島県本部、福岡県本部
(全農本所)
畜産総合対策部、耕種資材部
(関連会社が共催するブースもあり)

J A 全農・J A グループブース

